



ワシントン日本語学校(補習授業校)だより



はなみずき

mail:wjls@wjls.org http://www.wjls.org/



ワシントン日本語学校事務局

HOT LINE (301)962-7415

Phone (301)962-7410

FAX (301)962-7411

図書館利用数が大幅アップ！

校長 三原 洋一

本校の今年度の新しい取組として、「読書活動の推進」があります。具体的には、全米でもトップクラスの蔵書数を抱える本校図書館のさらなる活用を促すため、全ての学部で、読書に対する児童生徒の意識を高め、全ての教育活動の中で読書活動を推進していくこととしています。この取組のねらいは以下のとおりです。

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。

そこで、『国語力向上ベーシックプラン』の取組を踏まえて、読書活動の充実を図ることで、本校の児童生徒の国語力(読み、書き、話すなど言葉の力)を高めることをねらいとする。

特に、低学年の時期から本に親しむことが重要と考え、幼稚部・小学校1～3年生については、新たに図書館の利用時間を割り当て、合科の時間に15分の読書の時間を位置づけています。

新学年が始まってからの、図書館の利用数の推移を見てみると、以下のとおり、昨年度より利用者数、貸出冊数が大きく増加しています。さらに、生徒の利用数が上がっているだけでなく、同時に保護者の皆様の利用率も上がっていることも分かります。

2023年	4月	5月	6月
生徒	544人	678人	591人
保護者	224人	316人	303人
貸出	1,794冊	2,446冊	2,848冊

2024年	4月	5月	6月
生徒	712人	806人	695人
保護者	329人	393人	316人
貸出	2,703冊	3,126冊	3,321冊

このことから、学校の新しい取組を、保護者の皆様が十分に理解していただいて、共に取り組んでいただいていることが分かります。まさに、保護者との「共働学習」の取組の一端が数字に表れていることを大変嬉しく、有難く思っているところです。

文部科学省では、令和5年に「学校図書館図書標準」を定めています。これは、公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として、学校規模に応じた標準冊数を定めたものです。文部科学省によると、「学校図書館図書標準」を達成している学校の割合は小・中学校でそれぞれ71.2%、61.1%であり増加しているものの、その割合は未だ十分ではない状況であるようです。

本校の学級数から小学校の基準で計算をしてみると、13,000冊が蔵書の標準数となります。現在の本校の蔵書数は15,000冊以上あり、地方交付税措置もない海外にありながら「学校図書館図書標準」を十分に満たして

いると言えます。

1958年の開校以来、本校を支えてくださった多くの方のご尽力で、本当に恵まれた環境が整っていることに感謝するとともに、この環境を十分に活用して、引き続き、生徒の国語力（読み、書き、話すなど言葉の力）を高めるべく、取組を続けてまいります。



青空ピクニックの感想紹介②

6月15日に実施した全校青空ピクニックの感想を先週号に続いて紹介します。今週は、中学部の生徒の感想です。

【中学部1年 藤井 真彩さん】

私が青空ピクニックで一番楽しくて、印象に残っているのは、お昼ごはんを食べた時です。理由は、2年生の子たちと、少し仲良くなれた気がしたからです。最初は何を話せばいいのか分からなかったけれど、その子はプリンセスがかかっている物を持っていたので、プリンセスの話をしたり、夏の話をしてみたら、だんだん両方とも緊張がとけて、楽しく会話ができるようになりました。お昼を楽しく一緒に食べられると、その後遊んだゲームも仲良くできた気がしました。不思議だなと思ったのは、ピクニックの最初のころは風が強くてみんな気まずそうにしていたのに、最後の方でみんな楽しそうな表情で、なんだか風がさわやかになった気がしました。また、来年も青空ピクニックがあることを願っています。



【中学部1年 横山 遙さん】

僕が青空ピクニックで一番楽しかったことは、みんなが笑っているところを見ることでした。僕は、サイズを見ないでカバンに入れたレジャーシートがすごく小さくて、座らせてもらいました。座らせてもらう代わりに、友達はちよっかいを出してきて、それを見て笑っていた2年生を見ていたことが楽しかったです。その中には、幼いころの僕のような子がいて、昔の自分を見ているような気がしてとても面白かったです。次は、ちゃんとしたレジャーシートを持ってこようと思います。



【中学部3年 生島 千馨さん】

青空ピクニックは想像より一瞬で終わってしまいました。2カ月ほど前からこの日を待っていた身として、ピクニックは緊張と心配の的でした。小学生相手に会話の間がもつのか、生徒会で考えた遊びは計画通りに行くのか、みんなが楽しめるのかなどの沢山の心配を抱えて、土曜日の前日を過ごしました。でも正直なところ、私が一番気にかけていたのが「小学生と仲良く過ごせるか」という部分。小1の時の記憶は、ほとんどないにも関わらず、その頃の自分を想像したりして、必死に会話内容や遊びを考えたりしました。

そして、ついに二人のパートナーたちとペアアップし、緊張に満ちたピクニックデーが始まりました。でも、面白いことに始まってすぐにそ

の緊張は、愉快さと懐かしさへと変わりました。二人はとてもフレンドリーで思ったよりも会話を始めてくれて、すぐに打ち解けることができました。お昼ご飯を食べる頃には、ソフィアさんのバディーも加わり、5人でしりとりを始めました。面白かったのが、パートナーたちのしりとりの返答パターンが小1のころの私と全く同じものだったことです。「ま」だと「まくら」か「まま」、「ら」だと「ラクダ」か「ラッパ」、そして、「り」だと決まって「リンゴ」。一体なんで被るんでしょうか。そんな姿を見ていると忘れていたはずの小1の頃の記憶や思い出が、所々蘇ってきて、懐かしさに包まれたのを覚えています。中3の私にとって、青空ピクニックは過去を自然に振り返ることのできるきっかけとなりました。参加できてよかったと思っています。



【中学部3年 別所 凜さん】

青空ピクニックでは、まず自分のペアの子と打ち解けるのが難しかったです。私がペアになった二人は、あまり自分からグイグイ話さない子でしたが、趣味を聞いたり、しりとりなどの簡単なゲームで少し心を開いてくれたと思います。鬼ごっこになると、いきなり元気が出てきたようで、二人ともあちらへこちらへと逃げたくて、引っ張られてばかりでした。やはり小さい子供の方がスタミナがたくさんで、私が疲れ果てても、彼らは「何も疲れてない」と言い、たくさん走り回っていました。でも、とても楽しくて、ゲームが終わる頃には、だいぶ心を開いてくれたと思っています。帰り道は、もっと活発に会話ができ、とにかく癒されました。

